

晩春(Late Spring)

観賞日 2023年6月26日 上映時間 108分

【概要】

制作 1949年 松竹
監督 小津安二郎
原作 広津和郎 『晩春』
脚本 野田高梧
音楽 伊藤宣二
撮影 厚田雄春
出演 原節子(曾宮紀子)、笠智衆(曾宮周吉)、杉村春子(田口まさ)
三島雅夫(小野寺讓)、月丘夢路(北側アヤ)、三宅邦子(三輪秋子)



【あらすじ】

北鎌倉に住む、曾宮周吉、紀子の父娘。周吉は56歳、東京にある大学の教授。周吉は27歳になる娘の紀子の結婚を願っている。しかし、紀子は父の面倒をだれが見るのかと考えその気になれない。周吉の妹、田口まさも紀子の結婚を案じており、相手として周吉の助手の服部を勧める。周吉は紀子にそのことを打診するが、紀子は服部には既にフィアンセがいると笑う。その一方で、まさはやもめ暮らしの長い周吉にも縁談を勧めていた。周吉に再婚の意思を確認した紀子はショックを受け、まさが勧めるG・クーパー似の男と見合いをする。結婚を決めた紀子は周吉と京都に旅行をする。そこで、周吉が紀子に語ったことは、周吉が紀子についた嘘とは。

婚期の遅れた娘の結婚と幸せをひたすら願う父親とやもめの父の生活を気遣う娘。

原の小津作品初出演となった記念碑的作品。「紀子三部作」(本作・麦秋・東京物語)の第一作。 幾多の名作が生まれる序章。

【解説】

■ポイント

●小津安二郎＝原節子初組み合わせ

- ・原節子の小津作品出演は計6本で本作品が初となる(本作後に51年・麦秋、53年・東京物語、57年・東京暮色、60年・秋日和、61年・小早川家の秋)。
- ・小津の代表的作品に原が主演していることから、小津作品＝原のイメージが強いがそれほど多くはない。(因みに、笠智衆は9作品に登場。上記6作品+56年・早春、58年・彼岸花、62年・秋刀魚の味)
- ・原は小津以外の有名監督にも多数起用されており(島津保次郎・6本、山本薩夫・6本、今井正・5本、成瀬巳喜男・4本)、原＝小津とは言い切れない。

●当時(昭和20年代前半)の結婚事情

戦争により20代、30代前半の適齢期男性が少なく、そのあおりで未婚女性は結婚難であった。

●評価

- ・キネマ旬報ベストテン 1949年:1位
- ・英国映画協会が選ぶ史上最高の映画トップ50:15位(2012年)、22位(2022年)

■見どころ

- 互いに気遣う父娘＝小津ワールド全開
- 京都で父親の周吉が娘の紀子に語ったこと
- ラストシーン:慣れない手つきでリンゴの皮をむく周吉の想い